

日本不妊看護学会ニュースレター No.2

Japanese Society of Infertility Nursing (I.S.I.N)

第2回日本不妊看護学会学術集会開催にあたって

学術集会長 浜崎京子 (中央クリニック)

昨今10組に1組の夫婦が不妊と考えられ、現在では28万人の患者が治療を受けております。この現状に国や県などの公的機関も金銭的補助を含めた支援を開始、あるいは検討しております。

不妊治療は技術の革新と共に発達して参りましたが、その反面不妊カップルの治療への疑問・不安など精神的苦悩が増大しております。そのような中、より良い看護支援を目的に日本不妊看護ネットワークが発足、4年間の活動を基礎としてさらなる支援の充実を目的に日本不妊看護学会が2003年に設立されました。

第1回の学術集会は2003年10月に開催され、第2回の学術集会は関係各位の努力もあり、2004年9月5日に開催される運びとなりました。今回は「不妊とカップルの性を考える」を主題に、活発な議論と実践に沿った演題が多数寄せられることを期待しております。



目次

* 第2回日本不妊看護学会学術集会開催にあたって	1
* 第2回日本不妊看護学会学術集会のご案内	2
一般演題募集要項	3
* 勉強会報告	
関西地区	4
九州地区	5
* 理事会報告	7
* 事務局からのお知らせ	7
* 4月勉強会のお知らせ	8

第2回 日本不妊看護学会 学術集会のご案内

日 時：平成16年9月5日(日) 9:00～17:00
 会 場：聖路加看護大学 東京都中央区明石町10-1
 会 長：浜 崎 京 子 (中央クリニック)
 テーマ：『不妊とカップルの性を考える』

スケジュール：

8:45～ 開 場
 9:05～9:45 会長講演「不妊とカップルの性を考える」
 演 者：浜 崎 京 子 (中央クリニック)
 座 長：森 恵 美 (千葉大学)
 10:00～12:00 研究発表 一般演題
 12:00～12:30 総 会
 12:30～13:30 昼 休
 13:30～14:30 研究発表 一般演題
 14:30～14:40 休 憩
 14:40～17:00 シンポジウム 「生殖・性に揺れるカップルの傍らにということ」
 座 長：福 井 トシ子 (杏林大学医学部付属病院)
 清 水 きよみ (東京医科歯科大学)
 シンポジスト：「不妊カップルのメンタルヘルス」

川 野 雅 資 (三重県立看護大学)

「不妊カップルの性 ― 男性が生殖機能に問題を抱えた時 ―」

久 慈 直 昭 (慶応義塾大学)

「不妊カップルが二人の生・生殖を大切にする性への支援」

森 明 子 (聖路加看護大学)

参加費：会 員5,000円、非会員6,000円、一般・学生 (大学院生を除く) 2,000円

懇親会費：3,000円 (希望者) ※参加費・懇親会費は当日会場にて受付いたします。

参加ご希望の方は資料の準備等ありますので、同封しました学会案内の参加欄にご記入の上8月31日までに以下事務局へFAXにてお知らせ下さい。

演題募集：3月10日～6月15日まで (詳しくは下記にお問い合わせください)

連絡先 聖路加看護大学 母性看護・助産学研究室
 第2回不妊看護学会学術集会事務局 (小陽)
 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
 Tel/Fax：03-5550-2372
 E-mail：miki-koyoh@slcn.ac.jp

〈お知らせ〉

学会前日 (9月4日) には同会場で日本不妊看護学会・聖路加看護大学21世紀COEプログラム共催の
 実践不妊看護セミナーの企画を予定しております。(無料) こちらも皆様のご参加をお待ちしております。詳細は次回の
 ニュースレターにてご紹介いたします。

■ 一般演題募集要項

I 演題申し込みおよび発表資格

発表者・共同研究者はすべて本学会会員であることが必要です。未会員の方は、速やかに入会手続きを行ってください。また、学会発表時までに入会金・年会費が未入金の方がおられますと発表できません。演題発表の内容の質を維持するために査読システムをとり入れております。

II 演題申し込み方法

1. 演題は発表当日の時点で未発表のものに限ります。他学会等への二重投稿は謹んでください。
2. 発表者としての申し込みは、1人1演題に限ります。
3. 発表内容の形式は、研究と実践報告のどちらかを選択し、その番号を葉書の所定欄に記入してください。
4. 発表形式は口演のみで、発表時間は1演題につき15分（発表10分、質疑5分）となります。発表はパワーポイントによる液晶プロジェクターを使用し、スライド枚数は10枚程度をご準備ください。（尚、発表時に使用するPCのOSはWindowsXP、パワーポイントのバージョンは、Microsoft PowerPoint 2002に限らせて頂きます）

III 抄録原稿

1. 抄録原稿見本の用紙の注意書きに従ってください。発表内容の形式が「研究」の場合、本文には、I緒言（目的を含む）、II方法、III結果、IV考察、V結論を記入してください。また、「実践報告」の場合、I緒言（目的を含む）、II実践内容、III結果、IV考察、V今後の課題を記入してください。なお、研究の遂行に際しては倫理的配慮を明記してください。
2. 抄録原稿は原本1部とそのコピー1部、および所属名・発表者名を伏せたコピー3部、合計5部をお送りください。

IV 演題申し込み・抄録原稿締め切り日

演題申し込みと同時に抄録原稿を提出していただきます。
締め切りは平成16年6月15日(火)必着とします。

V 演題申し込み時の送付内容

- 下記のものを演題送付時にA4の封筒に入れ、事務局宛に郵送してください。
- 抄録原稿（上記に記載した合計5部）
 - 演題申し込み用紙（必要事項を明記し切手を貼ったもの）

VI 演題申し込み・抄録原稿送付先

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内
第2回日本不妊看護学会学術集会事務局（小陽）宛
Tel&Fax 03-5550-2372

勉 強 会 報 告

教育推進委員会では、「不妊看護の動向と照らし合わせながら、教育・研究の機会と場を提供することにより、学会員の継続的な研鑽を図ることを目的に、勉強会や実践不妊看護セミナーを企画、実施しております。今回は、先だって開催された2回の勉強報告を行います。

I 関西地区勉強会（事例検討会）

日 時：平成16年1月17日(土) 14:00～16:00

場 所：神戸市立市民病院 会議室

参加者：19名

プログラム：

14:00～15:00 事例検討、グループワーク
休 憩
15:00～16:00 自己決定に関する勉強会
Options Outcomes Values
Likelihoods の紹介

事例提供者

神戸市立中央市民病院 熊谷 恵氏

〈事例紹介〉

S氏 主婦 28歳 結婚28歳
夫34歳 システムエンジニア

・治療経過

平成15年7月31日、結婚後半年間避妊していたがその後半年間自己でタイミングをとっていたが妊娠しないため挙児希望のため来院する。初診時、治療についてどこまで望むかはわからないと言われていた。

検査の結果ヒューナーテスト不良。精液検査・量1.6/精子数 22×10^6 /運動率40%/奇形率23%のため人工授精を勧められ、同年11月から人工授精を開始。

人工授精1回目(11/25)妊娠反応が出なかったことで「何が悪かったんでしょうか。今回は精子もよかったし、期待はあんまりしないようにしているけど……した後は普通でいいんですよね?」「この方法がダメだったら次は?」と流涙された。

2回目の人工授精(12/28)はチューブの挿入が非常に困難であった。処置中に竜類されている。

この事例と不妊相談室での相談内容をプロセスレコードに近い内容の記録とともに提示して事例検討を行った。

〈検討の概要〉

- ・S氏がなぜ焦っているのか、本人も医療者側もはっきりわかっていない。
- ・家族や友人からのプレッシャーはどうなのか。
- ・ライフサイクルの計画とのズレがあるのではないか。

- ・自己決定できない状態にある。他者に決めてもらっているイコール逃げ場所を作っている。
- ・夫と気持ちのずれがある。きちんと話ができている。夫と話をすることがどうということかわかっていない。
- ・焦らなくてもいい時期だとこちらが思っても本人の気持ちと医療者のズレがある。
- ・共感することで自身の問題が何かを理解し、自己決定できるのではないか。
- ・きちんと話をすることがどうということか理解してもらう必要がある。
- ・夫婦間の意識にズレがあるのではないか。
- ・夫自信の気持ちを聞くことが必要。
- ・焦っている自身を夫にも他者にもわかってもらえないと感じている。
- ・話をしたいから相談室にくるはず。
- ・自分が欲しい答えを得るために何度も同じ事を質問を繰り返すのではないか。
- ・社会的情報が少ない
- ・治療で頭が一杯になっているので、全体から本人を見ることで解決策が見出せるのでは。
- ・自己決定……本人から夫へどう説明がされているか
子どもをもつ意味を夫婦でどう考えているか
夫婦揃って話を聞く必要性がある。

〈勉強会を終えての評価〉

参加者の感想：参考になった	6名
考える機会になった	5名
勉強になった	4名
次回も参加したい	1名
OOVLは今後活用したい	2名
OOVLの実際がわかりやすかった	1名
集まりが少なく残念	1名
要望・提案：もっと時間を長くしてもよい	2名
講義も入れてほしい	1名
進行のプログラムがほしい	1名
勉強会を継続してほしい	1名
GWで続けてほしい	1名

その他:

臨床では日ごろなかなか一つの事例について深く検討する機会がないので、今回の事例検討会はよい機会になりました。また、多くの人の意見を聞くことがで

き、いろいろな側面から考える事が出来ました。

認定課程でみっちり勉強されている方の意見は、とてもいい刺激になりました。

会計報告

収入 参加費 300円×19名 = 5,700円
支出 茶菓代 3,819円

*今回はコピー費が施設のもので分けて請求が困難であるということで、1,500円分ほど寄付という形にしました。

収入-支出 1,881円

残金は今後の勉強会のため不妊看護学会会計に入れたいと思います。ご了承の程よろしくお願ひします。

謝辞: 今回の勉強会では神戸中央市民病院の方々に会場準備・後片付け・受付で大変お世話になりました。ありがとうございました。

II 九州地区勉強会

日時: 平成16年2月22日(土) 13:30~15:30

場所: 福岡市 蔵本ウィメンズクリニック

参加者: 20名(会員10名 非会員10名)

福岡(13名)・熊本(1名)・岡山(1名)・
名古屋(1名)・兵庫(1名)・東京(2名)・
神戸(1名)

プログラム:

1. 事例検討

事例提供者

蔵本ウィメンズクリニック 中村 静氏

〈事例紹介〉

治療の受け入れ、自己決定ができない患者への関わり
遠方からの患者でICSIを目的に通院されている30歳の患者

ICSI 2回、Thawing-ET 2回 良好胚をETするが妊娠できない。

夫の乏精子症が原因でICSIを受けることになった。遠方からと言うこともあり初診で5時間かけて情報提供や今後の治療について説明をしたが同じ質問が繰り返される。質問内容は、最初はスケジュールのことなどについての質問が多かったが、そのうち受精卵の状態などについて、最近では自分の着床障害についての質問となっているため理解力不足とは考えられない。どれだけ時間をかけて関わっても自分の治療方針に対し自己決定できない症例に、どのようにアプローチしてゆくべきなのだろうか?

〈検討の概要〉

〈1グループ〉 自分が妊娠できないという現状をS氏自身が受け入れられていないのではないかと。夫に原因がありICSIとなったため、自分はほとんど検査もしていない。妻の不安もあるだろうが、実はそこには夫の不安もあり夫が自分の問題を解決できていないのではないかと。夫がまず自分の状態を受け入れられるように関わっていったほうがよいのではないかと。

〈2グループ〉 結婚して1年半という時期に通院しているのは、30歳という年齢から周囲のプレッシャーを受ける時期にあたる。どのような背景で不妊治療をすることになったのかということもこの問題のきっかけになっているのではないかと。簡単な気持ちで治療を始めたところ夫に問題があり、その後ICSIをしてもなかなか妊娠できない。きっと夫婦間で突き詰めた話し合いがなされておらず、お互いに自分の状況を受け入れられていないのではないかと。

〈3グループ〉 5時間という時間だけで本当に十分だったのか? この二人にとっては今後の治療の方向性についてもっとゆっくり考える時間が必要だったのではないかと。自分に原因があるということを受け入れていないのは妻だけではなく、実は夫もそうだったのではないかと。夫への関わりをもっと持つ必要があるのではないかと。

2. Options Outcomes Values Likelihoods (OOVL)

意思決定の方法論を使った事例へのアプローチ

事例提供者

岡山二人クリニック 定本幸子氏

(不妊看護認定看護師教育課程)

〈事例紹介〉

第2子希望。38歳。夫は最初は自分に問題があったので治療について協力してくれていたが、一人目ができ

たらもう自分には関係ないかのように出張がちで治療に対することは全て自分任せ。全ての責任が自分にかかるため自分で決めることにはストレスを感じている。2人目をつくる為に上の子を幼稚園に入れ育児も十分にできていないような気がする。自分自身も仕事をしているわけではなく1年前と比べても成長していないような気がする。治療をやめたら気持ちは楽になるだろうがやはり2人目がほしい。

OOVL: 意思決定の援助に用いられる方法。患者の選択肢 (Option)、成果 (Outcome)、価値付け (Value)、実現の可能性 (Likely-Hood) をもとに自分自身が考えていることを自分自身で気付いてゆくためのツール。企業でもよりよい方向に導く過程を考えてゆく一つのツールとして使われている。

〈OOVL を用いたグループワーク〉

3 グループともほぼ同様の話し合いとなった

選択肢としては『治療を止める』『治療を休む』『これまで通り治療を続ける』『夫と話し合う』があがった。成果としては『夫に協力してほしい』『やはり子どもは2人ほしい』『一人の子どもを大切に育てる』『仕事をするなど自分が充実できる方向を見つける』『不妊治療に対するストレスを減す』があがった。価値観としては『夫に治療に協力してほしい』『子どもはやはり2人欲しい』が高く挙がり、『ストレスが減る』が次の価値観として挙がった。『一人の子どもを大切に育てて行く』と『自分が仕事を持つ』は低い結果となった。以上のことより OOVL で評価してゆくと現在最も必要とされていることは第2子の治療を行ってゆく上で、夫と十分に相談して行くことがもっとも重要なこととしてあがった。

〈勉強会を終えての評価〉

参加者の感想: OOVL を活用したい 6名
他施設の方との意見交換は貴重な体験 5名
問題点や解決法の考えが広がった 4名
OOVL に興味を持った (参考になった) 3名

勉強になった 3名
GWで意見を言いやすかった・新鮮だった 3名
今後役に立てて生きたい 2名
考える機会になった 2名
自分と他の人の考え方を比較できた 1名
事例を通して NS の役割の
難しさを痛感した 1名
夫婦の基盤が大切なことを再認識した 1名
他のメンバーも連れて来たい 1名
もっと追及して討論がほしかった 1名
事例展開が効果的だった 1名

要望・提案: 各地で開催してほしい 1名
もっと時間を長くしてもよい 3名
現在取り組んでいることなどの
発表があっても良い 1名
定期的実施してほしい 2名
ロールプレイを行ってみる方法もよい 1名
小勉強会を行えたらと思う 1名

カウンセリングの方法を教えてください 2名
参加者主体の勉強会 1名

その他:

通常の業務の忙しさにより、問題となっても十分に理解を深められないまま関わりを続けていたケースについて十分に検討し、理解を深めることができたことがよかった。また今後の治療の方向性を選択して行く上で、自分自身が本当に何を望んでいるか明らかにできていない症例に対し OOVL を用いてアプローチしてゆくことは一つの自己決定を支援する方法として有効であることが示唆された。2事例の検討ともども勉強になった。今後は、参加者自身も事例を持ち寄り、参加者主体の勉強会にしたい。

報告 柴田文子

会計報告

(会計報告)

収入 参加費 300円×21名 = 6,300円
支出 コピー費 2,600円
茶菓代 3,052円

*今回はコピー費が施設のもので分けて請求が困難であるということで、1,500円分ほど寄付という形にしました。

収入-支出 648円

残金は今後の勉強会のため不妊看護学会会計に入れたいと思います。ご了承の程よろしくお願ひします。

謝辞: 今回の勉強会では蔵本ウィメンズクリニックの方々に会場準備・後片付け・受付で大変お世話になりました。ありがとうございました。

第3回 理事会報告

日 時：2004年1月9日(金) 16:30~19:30

場 所：聖路加看護大学 6階 601

出席理事：森(明)、森(恵)、此川、村本、有森、野澤、浜崎、福田、柴田、遠藤、岸田

幹事：清水、長岡

〈報告事項〉

理事長より新年、年頭にあたっての挨拶、所感表明

各委員会報告

〈審議事項〉

1 入会申込者の19名の承認

2 予算案の再検討

会費収入に関して、当初見込んだ会員収入額に達しないため、予算案の修正
不妊看護ネットワークの繰越金の扱いについて、本学会に繰り越すことを決定
ただし旧ネット会員に第2号NLで通知する。

3 広報委員2名の増員、HPは事務局管理

4 学会誌 第1巻の発行部数等について：200部、編集委員2名増員

5 第2回学術集会について決定（p6、第2回学術集会のご案内参照）

6 教育推進に関して

セミナーの開催に関して、学術集会と連動するかどうか検討され、学術集会と今後検討をしていく。が、2日間通して参加する場合とセミナーのみの参加、および学術集会のみ参加を別にして、振込みの内容について参加者が明記するようにする。

7 その他

第1回での海外（イギリス）との交流を今後も継続したいと考えている。

事務局からのお知らせ

1 日本不妊看護学会への問合せ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望、ご意見などありましたらお気軽に問合せ下さい。

2 現住所、所属、メールアドレスなどの変更がありましたら、すみやかにご連絡下さい。

3 知り合いの方で、入会の希望の方がいらっしゃいましたら、どうぞ宜しくお願い致します。

連絡先 e-mail : Jisn@alcn.ac.jp

会の移行に伴い、平成15年度の日本不妊看護ネットワーク(JINN)の繰越金80,108円は平成16年度日本不妊看護学会の繰越金として会の運営に使用させていただきます。旧ネット会員の皆様、学会員の皆様どうぞご了承下さい。

4月勉強会のお知らせ

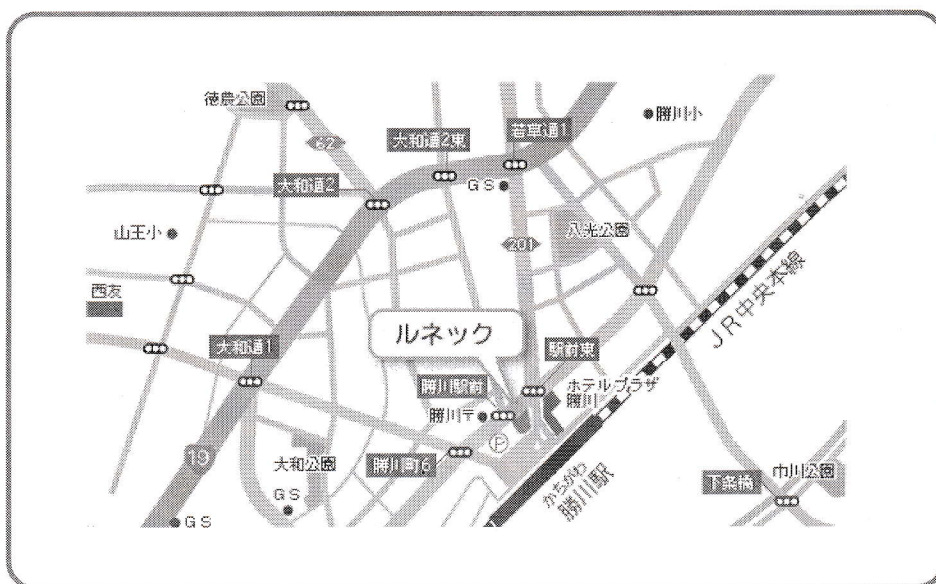
中部・東海地区勉強会

日 時：2004年4月17日(土) 14:00～16:00

場 所：〒486-0931 愛知県春日井市松新1丁目3330番地ルネック

浅田レディースクリニック

地 図



JR中央本線（名古屋駅発）約18分
勝川駅下車 徒歩30m

参加申し込み及び問い合わせ

参加ご希望の方は、事前に下記までご連絡下さい。

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 IHDビル4F 日本看護協会神戸研修センター

柴田文子 Tel 078-230-3286 (直通) 078-230-3250 (代表)

編集後記

三寒四温の日々が続いております。この時期、関連学会も多くまだ小さな所帯ですので、ひとり何役(難役?)もこなしての第2号の発刊となりました。

社会の話題性や課題は大きいのですが、なかなか経済的な基盤や理解が得にくい領域でもあります。健やか親子21推進協議会の団体にもなりました。第2回の学術集会の演題募集も始まります。

仲間をJISNに誘って、一緒に活動しませんか。お待ちしております。

(広報委員：遠藤俊子 林 はるみ)

日本不妊看護学会

Japanese Society of Infertility Nursing
(J.S.I.N)

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

Tel&Fax 03-5550-2266

E-mail jsin@slcn.ac.jp